内視鏡的胆道ドレナージが有効であった
免疫チェックポイント阻害薬関連硬化性胆管炎の一例

廣田　悠治[1)]　福永　篤志[1)]　高田　和英[1)]
東　　具隆[1)]　青山　　崇[2)]　温　麟太郎[2)]
林　　博之[3)]　松元　慶介[1)]　永田　貴大[1)]
姫野　修一[1)]　北口　恭規[1)]　山内　　涼[1)]
福田　洋美[1)]　梅田かおる[1)]　古賀　毅彦[1)]
土屋　直壮[1)]　田中　　崇[1)]　石田　祐介[1)]
横山　圭二[1)]　釈迦堂　敏[1)]　平井　郁仁[1)]

[1)] 福岡大学医学部　消化器内科学講座
[2)] 福岡大学医学部　呼吸器内科学講座
[3)] 福岡大学医学部　病理学講座

要旨：59 歳男性に発症した免疫チェックポイント阻害薬（immune checkpoint inhibitor: ICI）関連硬化性胆管炎の 1 例を報告する．患者は肺扁平上皮癌に対する Pembrolizumab による維持療法中に発熱と胆道系優位の肝障害のために消化器内科に紹介された．画像検査で肝外胆管壁のびまん性肥厚と中枢側の胆管拡張を認めたこと，自己免疫性胆管疾患や胆道系の腫瘍性疾患が否定されたことから，ICI 関連硬化性胆管炎と診断された．ステロイドおよびミコフェノール酸モフェチルの治療効果は限定的であり，内視鏡的胆道ドレナージが有効であった．近年，ICI 療法の普及に伴い，ICI 関連硬化性胆管炎の症例報告が増加している．ICI 治療中に胆道系優位の肝障害が出現した場合，臨床医は硬化性胆管炎の可能性を認識し，専門臨床科と連携して対応する必要がある．

キーワード：**ICI 関連硬化性胆管炎**，**Pembrolizumab**，胆道ドレナージ